



# パラオ通信

No. 25 /3/28/2020

JICA 海外協力隊 SV 天野久雄

パラオの小学校にある学校設備や遊具について、「パラオ通信 19」の追加をします。日本の小学校ではあまり見かけないものです。

## 1. 野菜箱



どの小学校にもこのような野菜を育てる箱が置かれています。害虫があまりいないので、多くの野菜が無農薬で育てられています。

野菜の種類はナップ（小松菜の類）、空芯菜、ニラが多いです。箱はどれも手作りで、防水シートと排水パイプが取り付けられています。

## 2. コンクリート敷きのバスケットコート



バスケットコートは多くの学校にあります。体育の時間や放課後に生徒たちが使っています。バスケットボールは手軽で学生たちに人気があります。コートはコンクリート敷きなので、雨が降っても大丈夫です。

周囲にベンチを並べて、バスケットコートが集会場になっている学校もあります。

## 3. 売店



コロール小学校とパラオ高校には売店があります。左の写真はコロール小学校の売店です。午前中の休憩時間や放課後に、店の人がスナックを売っています。

お菓子やキャンディー、パパイアの漬物など、子どもが好きな品ぞろえになっています。放課後にはアイスクリームも売られます。

学校の施設は教育省の作業スタッフが巡回して修理や点検をしています。野菜箱が壊れていると分解して、土やシートを交換します。気温は1年中 30℃前後で雨もよく降るので、野菜がよく育ちます。

コロール小学校の子どもたちは夕方に保護者が迎えに来るまで、お菓子やアイスクリームを買って食べたり遊んだりしています。

## 4. 学校掲示板



これは校舎の掲示板です。教育目標や願いが、子どもたちがわかるようなことばで書かれています。

どの学校にも独自の表現で掲示されています。左はミューンズ小学校の例です。

## 5. 遊び場と遊具



左はコンクリートの通路に描かれた○を片足で跳んで行くゲームです。「ケンケンパ」と言うそうです。

右は古タイヤに座ってバランスをとる遊びです。タイヤは磨いて色塗りがしてあります。

## 6. ヤキュウ



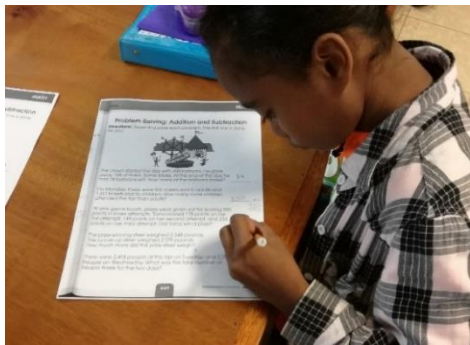
左は体育の時間の「ヤキュウ」です。私が「ベースボールですか」と聞くと、ボールを投げていた先生が「いいえ、ヤキュウです」と返事をしました。ボールは硬式テニスボールで下手投げ、盗塁は禁止というソフトボールに近いルールです。そして男女混合で試合をします。

「ベースボール」は、金属バットにグローブやベースを使った正式の野球のことのようです。

右はパラオ高校の学生たちが休み時間に遊んでいた「ヤキュウ」です。バットは竹製で、紙を丸めたボールを使います。手作りボールなので投げるとよく曲がります。私もやってみましたがとても面白いです。ガラスを割る心配がないので、見ていた先生たちは止めません。

そのほかの高校生たちの遊びは、オープンハウスでウクレレを弾いたりスマホゲームをしたりすることです。

## 7. 文字の違い, 書き方の自由

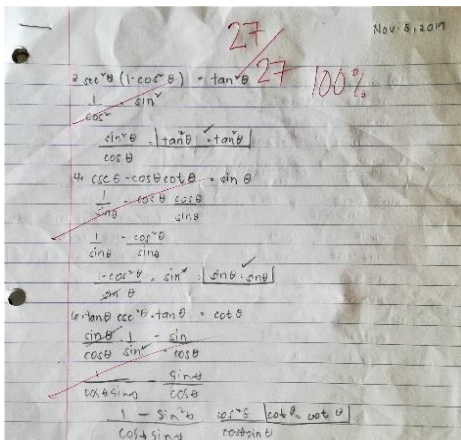


私が小学校や高等学校で数学を教えるとき、気を付けていることがあります。それは数字の書き方をパラオ流にすることです。私は気にしていませんでしたが、そうしないと学生たちが気にします。「その字は違っています」と注意してくれる親切な(?)学生もいました。


6や7が日本の学校で教える字の形と違います。4と5も違います。分数は上の数字、つまり分子から書きます。また30は「ゾルティ」と英語(?)で言います。

この子は数字や英文を縦に書いていきます。すべての文字や数字を横に寝かして書くので、紙を戻すと正しく書けています。彼女にとっては何の問題もありません。パラオには用紙を斜めにして書く学生がかなりいますが、横に倒して縦に書く生徒がいることにはびっくりしました。学校訪問していると、ときどきそのような学生が見られます。私がとなりで数学を教えるときは、学生の書いた英文や数式が読みやすいというメリットがあります。

日本の小学校では、平仮名や漢字の書き順まで厳しく指導します。数字や $\times$ 、 $\div$ の記号まで書き順が決まっています。でもパラオではそこまでは指導しません。アメリカの小学校でも同じようで、先生によって書き順が違います。私は最近では4から9の数字を無意識に、パラオ文字で書けるようになりました。(逆に日本に帰った時が心配です)





左はパラオ高校4年生、数学(三角関数)小テストの答案です。ご存じの人もいるでしょうが、 $\surd$ や $\checkmark$ 記号は正解の印です。○は誤り、間違いを意味します。慣れないうちはかなりの違和感を覚えます。点数は分数と%で表します。

100%の正解率、満点を得た答案用紙に「ハナマル」をつける先生もいます。これは小学校で算数指導をしていたJICA隊員たちが広めたようです。

一部の小学校では、「ハナマル」がパラオ語としても使われています。外来語としての扱いでしょう。

## 終りに

パラオ高校で先生たちがよく使う日本語があります。学生たちが理解できたかどうかを確認めるときは、「ダイジョウブ?」と先生が聞きます。すると学生たちは「ダイジョウブ」と親指を立てます。もちろん英語で聞くとときもありますが…。学生が授業中にトイレに行きたいときは「ベンジョ」と小さい声で言って、教室を出る許可を先生からもらいます。

数学教師のブルースは、学生たちがわからない顔をしていると、「アタマサビテル?」と聞きます。学生たちは「ダイジョウブ」とか、「サビテル」と答えます。そういう時に私は「アタマミガコウ」と言って励まします。パラオ高校には選択教科の一つに「日本語」があるので、日本語を少し話せる学生たちがいます。